

＜令和4年度の導入事例の紹介＞

金型の設計段階で干渉箇所を検出できるCADソフト導入による生産性向上の取り組み

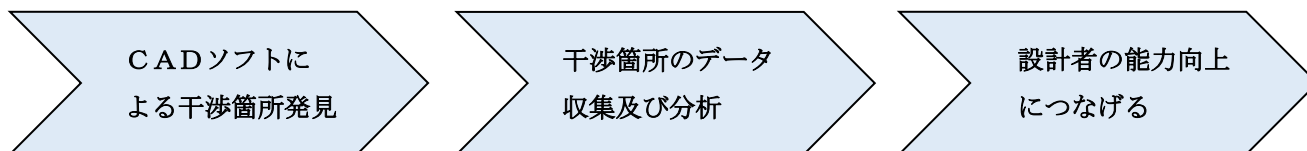
朝日興業株式会社

【課題】

- ・ プレス金型製造では、「設計」、「検図・確認」、「加工データの作成」、「機械加工」、「組付け」、「完成」の工程を経て製品を製造しているが、「組付け」作業時に、「干渉（上下に分かれた金型をプレスする際の衝突）」が発生すると、再度、「設計」からやり直す必要があり、「検図・確認」作業が非常に重要となる。
- ・ しかし、「検図・確認」作業における「干渉」の予見は、高い経験値が求められ、経験年数が浅い設計者がこの作業を行うことはできない。このため、干渉が発生した場合には、経験の長い社員が対応する必要がある、他の設計業務に遅れが生じ、生産性向上を妨げているなどの課題が生じている。

【事業内容】

- ・ 設計段階で干渉箇所を検出できるCADソフトを導入し、経験年数が浅い設計者でも干渉が発生しない図面を容易に作成できるようにした。また、干渉箇所の検出データを収集・分析し、設計者間で共有することで、設計者の能力向上を図り、さらなる生産性向上を図った。



【事業効果】

- ・ ソフトウェアの導入により、設計段階で、すべての干渉部位が発見でき、組付け作業時の干渉発生による不具合の修正作業を行う必要がなくなった。また、これまでは干渉が発生した際、経験年数が長い社員が対応にあたり、他の設計業務に遅れが生じていたが、CADソフトの導入により経験年数の浅い社員でも干渉部位の把握が容易となり、脱属人化を図ることができた。
- ・ ソフトウェアで検出した干渉発生箇所のデータを収集・分析し、その結果を設計者に共有したことで、設計段階から干渉の少ない図面が作成できるようになり、さらなる生産性の向上が図られた。